

道の駅「明治の森・黒磯」

【外観】 那須五峰をイメージした5つの庇が影をつくり、農産物を日差しから守る。



【マーケット】 明治の森の緑を店内に取り込む



【マーケット】 高窓から自然光が入る明るく活気あふれる店内、内外連続する壁が製品ごとのエリアをつくる。

山々に抱擁された那須野が原の様々な魅力が大屋根の下に集い、地域の新たな魅力の発信拠点となる。

■設計主旨

道の駅明治の森・黒磯が位置する青木地区は明治時代にドイツ公使などを務めた青木周造により開拓事業が行われた。隣接する旧青木家那須別邸は明治22年に建設されたドイツの建築様式が多用された建物であり、日本では珍しい鱗壁(うろこ)や蔦壁(つた)により外壁がつけられ、前面と側面をベランダがめぐる繊細な白い柱が特徴的な建物である。

当地からは美しい稜線の那須連山が眺められ、新緑から雪化粧の姿まで四季折々の様子を見る。那須連山の麓、那須野が原で作られる農産物や乳製品、そして魅力的な人達の集う場として、道の駅明治の森・黒磯は計画された。那須塩原の「食」「農」「観光」が集う場として、地域のシンボリックな拠点となるよう、那須五峰の山並みをモチーフとした大屋根を設けた。山々に抱擁された那須野が原の様々な魅力が大屋根の下に集い、地域の新たな発信拠点となる。皆々を招き入れるように、大きく開かれた庇は白い柱によって支えられ、屋外スペースの滞留を生むと共に、内部へと影をつくり夏の日差しから農産物を守る。

施設内外には隣接する旧青木家那須別邸の色彩や意匠をちりばめた。地域の皆に慣れ親しんだ別邸は今もなお、明治の魅力的な香りをこの地に伝える。困難な開拓の歴史を知る別邸を見つめ、140年の先、緑豊かな生産地となったこの地を心に刻む。

内部の「明治の森マーケット」には外部庇と連続するように杉板の勾配天井がつながる。内外連続する壁が各コーナーを緩やかに分け、空間に躍動感を生む。開口は多様な商品レイアウトを可能にするため、床面から2mの高窓とし、庇に守られた高窓からは、豊かな木々が覗く。

連続する「明治の森ダイニング」からは旧青木家那須別邸が眺められる。緑豊かな森へとつながる庇の下にはテラス席を設けた。くつろぎながら那須塩原産の食事を楽しめる。

西側には事務所や荷解室、冷蔵庫、厨房などのサービス空間を集約している。様々な用途が混在する中、日々の納品が円滑におこなわれるよう、幅広く外通路を設けている。道の駅の特長上、生産者側の利用のしやすさが活発な運営の源となり、運営スタッフとの日々の交流が新たな魅力を生み出していく。



案内図

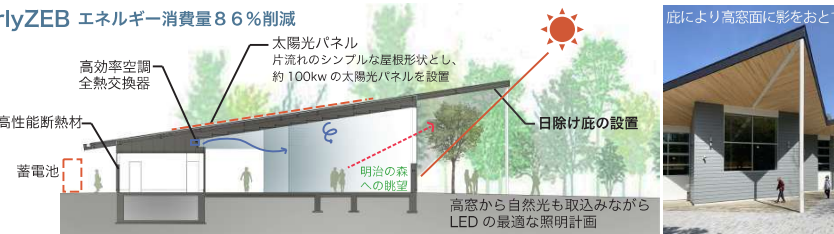


全体配置図

敷地面積	: 3458.38 m ²
建築面積	: 1172.12 m ²
延床面積	: 1182.37 m ²
構造	: 鉄骨造
階数	: 地上1階建
高さ	: 7.88m

■省エネルギー NearlyZEB エネルギー消費量86%削減

創エネと建築的手法により、良質な室内環境と同時に、環境負荷の低減をおこなっている。また、災害停電時の蓄電池使用により、空調、厨房稼働による避難場所への転用も想定している。青木地区では地区全体でゼロカーボンに取り組んでいる。



庇により高窓面に影をおとす。

■青木別邸からの継承

隣接する青木別邸の色彩や柱、鱗壁など様々なモチーフを取り入れ、地域の人達が慣れ親しんだ明治の香りを継承していく。

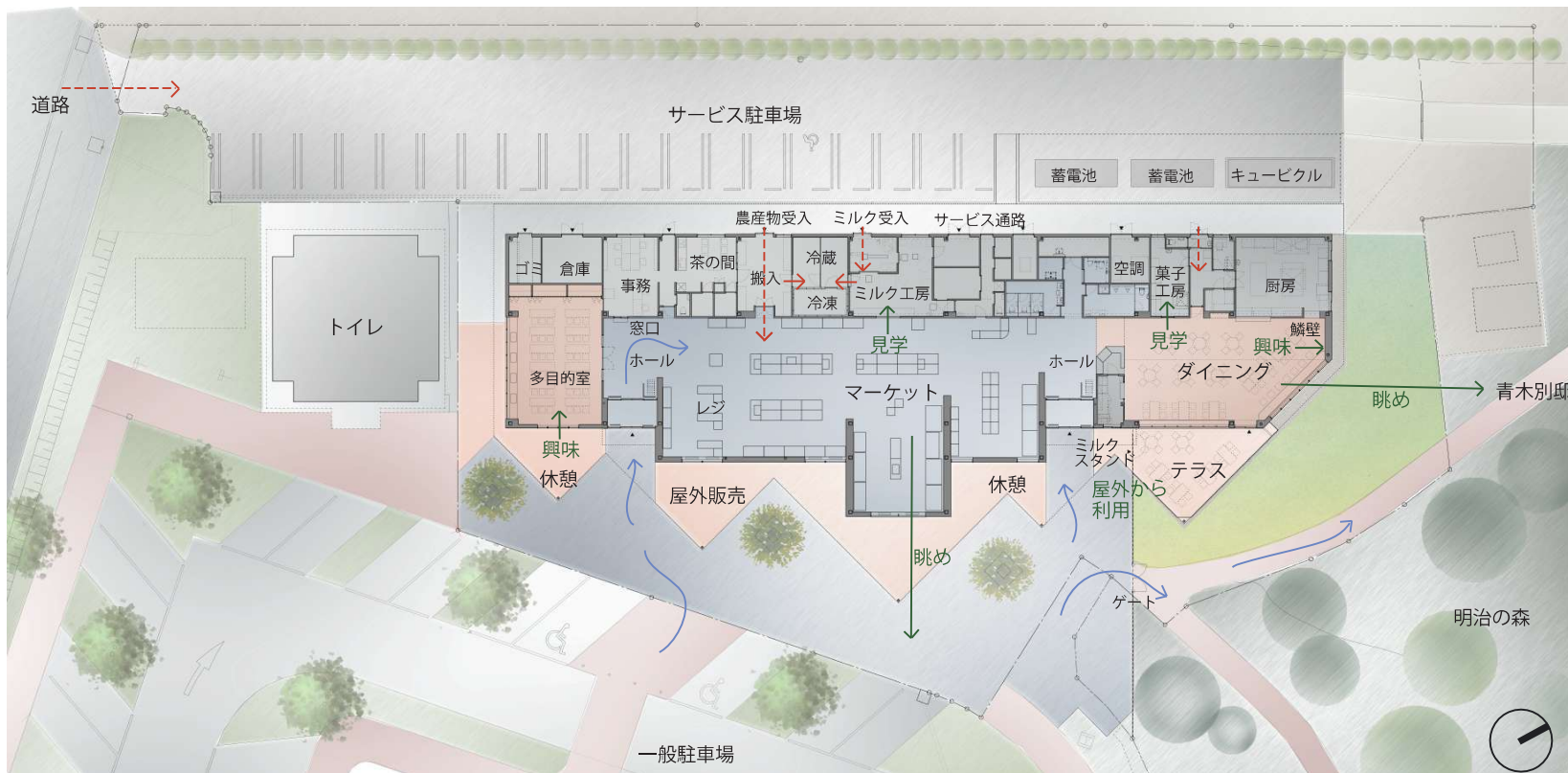


■那須五峰をモチーフとした大屋根

那須地域の象徴的な那須五峰の山並みをモチーフとした大屋根をもうけている。山々の下に地域の魅力が集う。



■ 平面計画 東側に主要室、西側に事務所や荷解室、冷蔵室、厨房などのサービス空間を集約している。様々な用途が混在する中、日々の納品が円滑におこなわれるよう、幅広く外通路を設けている。ダイニングを北側の青木別邸に向け配置し、明治の魅力的な香りをこの地に伝える。



多目的室 飲食や集会、料理教室などの地域活動の場として、屋外やマーケットからの視認性を確保している。



マーケット 勾配天井には屋外から連続する地場の杉板が貼られている。外壁より連続する壁が各エリアをゆるやかに分けている。



ダイニング 明治の森に向かい大きく開口を設け、心地良い空間で食事を楽しめる。

配置兼平面図



外観 緑豊かな明治の森からの流れを継承し、庇の間に木々を配置した。季節を伝え、日陰をつくり、共に成長していく。



底下空間 庇の下は草花などの屋外販売や休憩スペース、イベント時など様々な場として利用される。



ホール 入口ホールには対応しやすいよう事務所とつながる窓口を設置。



天井ライン ラインには空調、照明等をまとめて配置している。



ミルクスタンド ペット連れの方など外から直接利用できるようなスタンドを設置している。



テラス 明治の森と一体となった庇にまもられたテラス空間。



青木別邸 ダイニングからは青木別邸が眺められる。

〈建築主 那須塩原市長〉
緑豊かな環境と日本遺産「旧青木家那須別邸」が織り成す空間を感じてもらいたい。単なる建替ではなく、「食」と「農」そして「観光」の新たな発信拠点となるようZEB化を考慮した再整備を行った。地域経済の発展をけん引する重要な存在になると考えている。

〈設計者 株式会社 刈谷建築設計事務所〉
那須塩原市の困難な開拓の歴史を知る「旧青木家那須別邸」を継承し、140年の先、緑豊かな生産地となったこの地を来館者に感じてもらうと共に、那須五峰を模した大屋根の下に那須野が原の様々な魅力が集うよう設計を行った。

〈施工者 石川・福田・深谷特定建設工事企業共同体〉
・鉄骨の精度が重要と考え、柱芯の位置・建入精度を確保するためワイヤーを4方面に張れるように基礎梁に専用のフックを打ち込み施工を行った。
・鉄骨柱の上下端がピン接合の為、ボルトを締め固めるまで不安定な状態となるので、相番クレーン車にて柱を保持するとともにボルトのがたつき分を調整して鉄骨を組み立てた。